

事業立案の背景・課題

- 現状、ステークホルダーに提示するサッカーの価値が、日本代表コンテンツや広告等によるブランド露出、視聴率等の項目に頼る形となっており、**本来スポーツが有するであろう普及や育成の事業実施による社会に対する効果や価値については主に定性的な表現でしか示すことができていない**
- 加えて、競技面においては、東京オリンピック、FIFAワールドカップ共に目標に届かず、JFAが掲げる2050年までのワールドカップ優勝の実現に向けては、**データ活用による育成強化は依然として大きな課題**となっている。
- 今回、普及・育成領域の各種事業について、データの蓄積・収集・分析を行い、サッカーの持つ**社会的価値（社会的インパクト）の可視化**や、**DXによる育成領域におけるデータ分析品質の向上**を通じて、社会的側面及び競技的側面の観点から、**新たな価値を創造することで、持続可能なサッカー・スポーツ界の実現を目指す**

取り組み①社会的インパクト評価事業（SROI測定）

事業・取組状況

SROIによる社会的インパクト分析の概要 | サマリー

社会的価値分析の概要

- **社会的投資収益率法（Social Return on Investment）とは**
 - ✓ ステークホルダー参加型評価手法であり、**事業実施により生じる社会的・経済的・環境的变化を、市場価値に当てはめて変化の価値を定量的に可視化**するもの
- **分析目的**
 - ✓ JFAの主要事業に加え、特にこれまで定量的な価値の提示ができていなかった普及領域の事業について、今回SROI分析を通じてその効果を定量化し、投資対効果の把握を行う
 - ✓ 分析結果は、団体としての活動改善のための参考や、関連ステークホルダーへの説明責任履行のための資料として活用する
- **分析対象期間**
 - ✓ 2022年度の活動実績を分析対象とした
- **分析対象事業**
 - ✓ JFAで行う主要な事業を対象とし、以下の5つを選定した
 - 普及事業（以下の3つの活動を含む）
 - 巡回指導
 - フェスティバル
 - ウォーキングフットボール
 - グリーンプロジェクト（施設整備、天然芝広場整備）
 - 日本代表戦
 - 女子競技会（高校選手権）
 - U10-12リーグ・全日本選手権

留意事項

- アンケート未実施であるため、可視化できていないアウトカムは分析結果に含まれていない
- 今回データ取得が困難であったアウトカムは分析から除外している

社会的価値分析のプロセス（イメージ次項）

1 評価対象者・ステークホルダーの確定	事業の実施目的が明確で評価実行可能性を認めた後、評価対象者(影響を受ける人)や、事業に関与するステークホルダーを確定
2 ロジックモデルの作成	インプット、アクティビティ、アウトカム、インパクトから成るロジックモデルを作成し、アウトカムの測定方法を設定
3 データの分析・評価	アンケートやテスト等より収集したデータを分析し、アウトカムの量を測定
4 インパクトの確定	事業が行われなくても生じた変化や、外的要因によって生じた変化を排除し、実際に事業によって生じた純粋な変化を測定
5 SROIの計測	総便益を総費用で割り、SROIの数値を計測
6 報告	分析した結果に基づき事業改善や、ステークホルダー間での共有、外部への共有を行い、発見や課題を活用

今後のスケジュール

必要手続	2023年							
	2月				3月			
	1	2	3	4	1	2	3	4
アンケートの実施	配布・回収							
アンケート結果の集計				集計				
SROI分析への反映				SROI値の分析				
報告書作成						報告		

最終報告

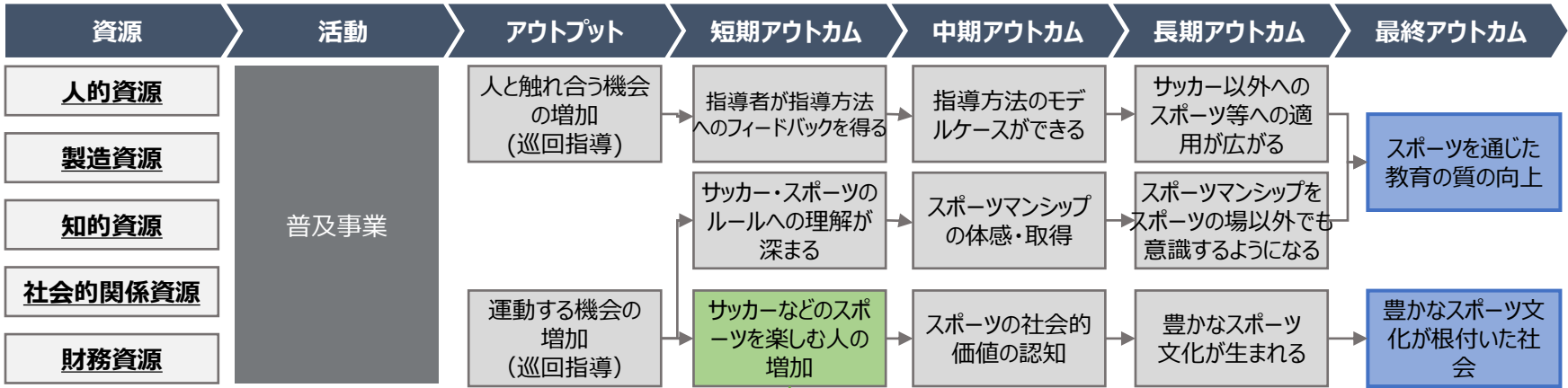
取り組み①社会的インパクト評価事業（SROI測定）

事業・取組状況

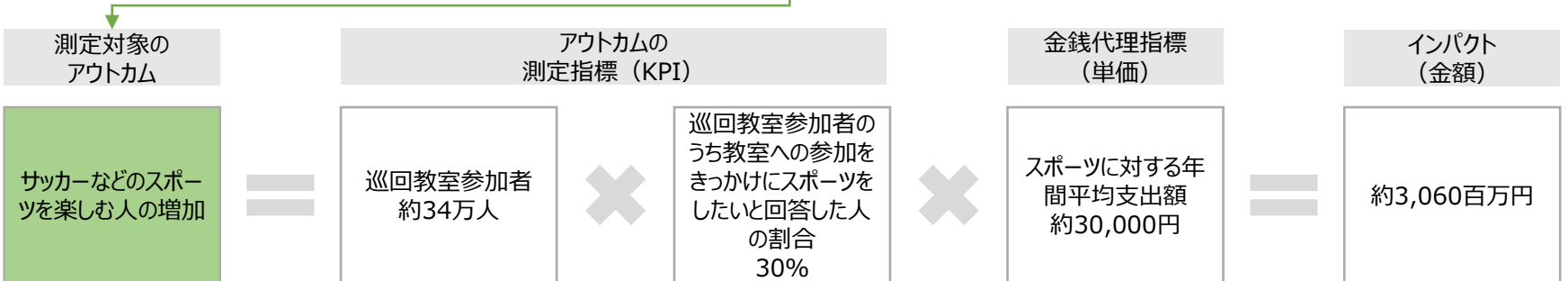
SROIによる社会的インパクト分析の概要 | SROI分析のイメージ

- 社会的価値分析を通じて作成されるロジックモデルと、それに対応したインパクトの定量化のイメージは下記の通り。

ロジックモデル（巡回指導※のケース） ※指導者が幼稚園や保育園等を訪問し、ボールを使ったエクササイズを行うことで外遊びや体を動かす楽しさを体験してもらう事業



社会的価値分析の計算プロセス（例）



留意事項

- 上記ロジックモデルについては策定途中のものであり、最終的に各項目の内容等が変更になる可能性がある
- 実際の計算に当たっては、活動から発生したアウトカムのみを測定するため、寄与率や反事実等の調整を行う

事業・取組状況

① 成果と課題

- 主要事業や普及事業の**ロジックモデル策定**に着手
- 評価結果の信頼度向上に向けた**現状把握されていないデータの収集・整理**

② 生じた課題に対する対応策

- 直近事業を活用した必要情報の収集（大会参加選手へのアンケートの実施等）
- 既存事業で得られないデータについては登録者などへのアンケート等を別途実施することで収集

③ 来年度に向けて

- **ロジックモデルの精緻化**及び評価において必要となる**定量/定性データ収集の強化**
- 評価結果を踏まえた**事業改善サイクルの実行**
- **間接的、波及的な効果に対する評価の実施**（評価対象の拡大）
- スポーツ界全体の（特に普及領域事業の）価値の可視化に向けた**取組の横展開**

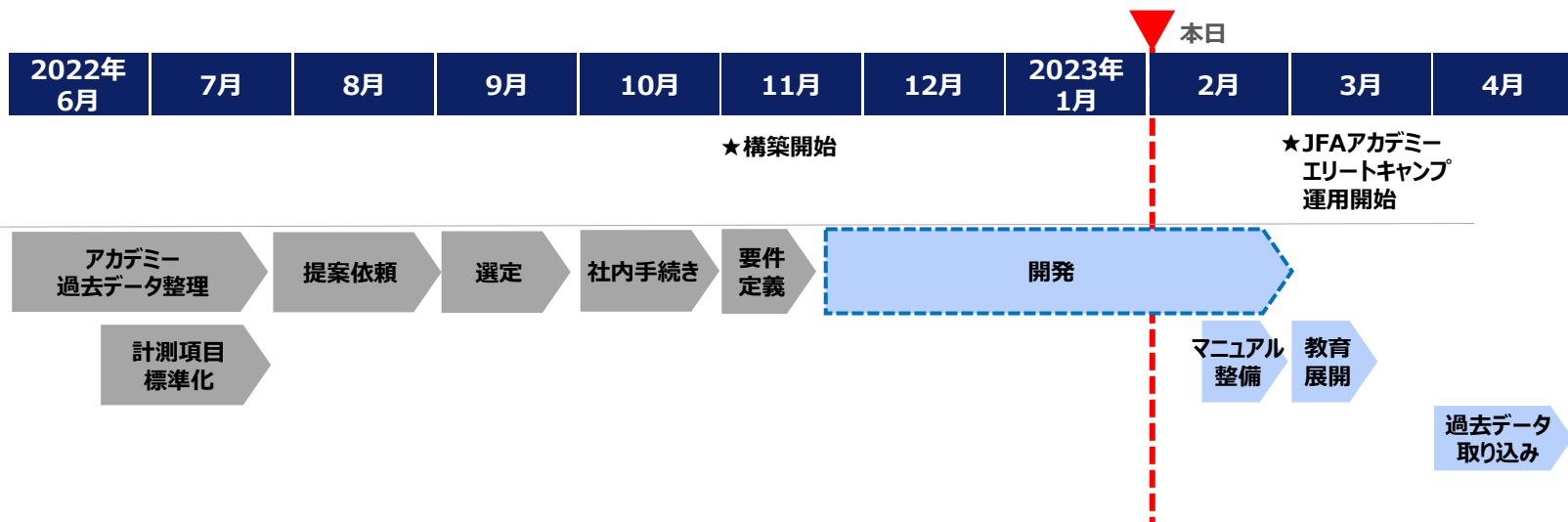
事業名：「普及・育成事業領域の価値向上基盤整備事業」

団体名：公益財団法人日本サッカー協会

取り組み②選手活動データの統合的集約、及び分析活用事業

事業・取組状況

- データの一元管理を実現する管理システム構築、展開
- 現場での直接入力を支援し、負荷の無いデータ投入を実現するためのスマートデバイス対応
- JFAアカデミーの集積データ(10年分)のクレンジング、計測項目の標準化
- システム改善サイクルを継続的に図り続ける内製体制の構築



◆今年度の成果と課題

- ・計測者によりバラつきがあり分析に向かなかった管理項目の標準化に着手
- ・内製開発力を持つDX人材開発に着手。請負開発の外部委託により生じる要件定義不足、認識相違、品質劣化とコスト高の改善。

◆生じた課題に対する対応策

- ・JFAアカデミー過去集積データ(10年分)のクレンジングを通じた計測項目・方法の標準化
- ・内製化支援体制の構築、作り上げたアプリの作り方レクチャーを踏まえた契約締結

◆来年度に向けて

- ・JFAアカデミー及びJFA主催エリート育成での計測で実行性検証、改善
- ・使い易さを追求するアプリ改善サイクルを実施